



15人制女子日本代表主将

南早紀

ラグビーワールドカップ (W杯) 日本大会開幕まで1カ月を切った。実はラグビーは来年、再来年もビッグイベントが待っている。来年は2020東京五輪。男女とも7人制で出場する。そして2021年、ニュージーランドで第9回W杯が開催される。15人制日本代表のキャプテンは、南早紀 (23=横河武蔵野アルテミ・スターズ)。FW最前列のブロップを務める南に、ラグビーの魅力聞いた。

7月の日本代表テスト・スタジアムで横河武蔵野アルテミ・スターズの9選手、左から村上愛子、加藤麻子、南早紀、小西梨乃、津久井明、三浦あかり、名倉ひかる、三浦あかり

3歳で当時の太宰府少年ラグビークラブで橋本 (だん) 球に出会った。同県内の筑紫高校では、男子と一緒にラグビー部に所属した。「力の差は感じていたのですが、私、ムチャクチャ負けず嫌いなので、気持ちでカバーしていました」。

日体大に進むと1年生の冬から日本代表の練習に呼ばれ、同2年で代表戦に出場した。大学4年で迎えた17年W杯アイルランド大会は5試合すべて先発した。1勝4敗だった。ほろ苦い思い出を「未熟さが前面に出た大会でした。初めてのことで、中3日で5試合、体もすごくキツイし。精神的にもキツイ3週間でした」と振り返る。

W杯目標はベスト7以上

そして今、サクラフィフティーンのキャプテンを任される。4月25日には、都内のイギリス大使館でのエリザベス2世誕生パーティーに招待された。所属する横河武蔵野アルテミ・スターズからは9人の日本代表が名を連ねる。その横河でも主将。名実ともに日本女子ラグビーの中心だ。南はW杯に向けても迷わず語った。

「自分たちの目標としては、W杯ベスト7以上をターゲットにしています。この前、代表が初めての選手も、オーストラリア代表とのテストマッチで、世界と戦うことはどういうことか、肌で感じたと思う。女子の15人制は、すごい可能性がある。強化をすれば、世界の強豪相手にも、トップを狙える位置にいる。能力も持っている。もっと注目してもらって、強化して、今目標にしているベスト7を必ず達成したい」

負けず嫌いで、ラグビー好き。そんなヒロインの視線は、真っすぐ前だけを向いている。

スクラムでは負けない!!

飾らない笑顔が、トレードマークだ。明らかに南は質問に応える。来年、東京で開催される五輪では、7人制ラグビーが種目となっている。大きな魅力があるはずだが、南は迷わず15人制を選ぶ。

「率直に言うと15人制の方が楽しいから。ラグビーは15人制かな。私はブロップ。背番号3番です。FW、面白いですね。いつもくっついている分、結束も強い。男子と同じで、FWの方がブチャワチャしている。それに、すごく明るい。どうしてもオリンピックに注目が行ってしまふ。女子にも15人制があるんだとて、認知度が高くなってほしい」

華麗なパス回しやランニングもラグビーの魅力だが、泥くさくても集団で固まって、1歩1歩前に進むFWが好きだと言う。

7月に日本代表 (サクラフィフティーン) はオーストラリアに遠征し、同国代表と2試合戦った (2敗)。「私のトイメンは120°くらいありました。自分より50°くらい重い相手でした。でも、スクラムでは負けないです。テクニックと低さで」



◆南早紀 (みなみ・さき) 1995年 (平7) 11月18日、福岡生まれ。日体大から横河武蔵野アルテミ・スターズ1期生として加入。勤務先は横河レンタ・リース。身長163cm、体重68kg。